

第1回江府町図書館協議会 会議録

【日時】平成29年6月2日（金）

午後1時から3時まで

【場所】防災・情報センター 2階研修室

<会議出席者>

【委員】

佐々木委員、加藤委員、黒見委員、井上委員、
土居委員、前川委員、小林委員

【事務局】

図書館：長岡司書、加持谷司書、中尾司書
教育課：富田教育長、川上課長兼館長、山本主査、道下主幹、川上主事

1 **開 会** →（事務局進行）
教育長挨拶 →（富田教育長挨拶）

2 **説 明** →（事務局）

（1）図書館協議会（図書館のあり方検討会）について →（山本主査説明）

→「目的」平成17年に防災・情報センターが出来た際、図書館を移転し町民の自立支援の取り組みを行ってきました。10年が経過し、ニーズも複雑化する中で、本来の使命を踏まえつつ、時代のニーズにあったものにするため、みなさんの意見を基に検討していきたいと思えます。

→「任期」平成29年4月1日～平成31年3月31日の2年間

→「会議」年4回の会議で、今回は課題と強みの把握をし、今後は7月・9月・10月に予定しています。協議の視点は説明資料に挙げているとおりで、このあと詳しく説明するので、意見ををお願いします。

（2）委員紹介 →（山本主査報告）

→名簿順に報告

→事務局自己紹介

3 **役員選出** →（山本主査進行）

→会長の選出をしたいと思いますが、どなたか立候補・推薦される方はおられませんか。

（加藤委員）佐々木先生が良いのではないのでしょうか。

（佐々木委員）わかりました。それでは引き受けます。推薦していただいた加藤委員さん、副会長としてサポートをお願いします。

会長： 佐々木 満 **副会長：** 加藤 泰巨

4 協 議 → (会長進行)

(1) 図書館の現状について → (事務局山本主査説明)

(会 長) 早速協議に入ります。事務局から説明をお願いします。

(山本主査) 図書館の現状について公共図書館のサービス指標等の資料をご覧ください。

平成27年のものになりますが、黄色が江府町、若桜・日吉津・日野をピンクで分けており、人口3千人程度の同規模の4町を比較してみています。

《登録率》低い。この登録率には転出者も含む。

《一人当たりの貸出冊数》江府が一番低い。

《一人当たりの資料費》4つの市町村の中では低いが、全体ではそうでもない。

《一人当たりの蔵書冊数》他町と比べても少なめ。

《図書館の施設面積》175㎡。他の図書館と比べ狭い。1階スペースだけだと収容冊数は1万冊程度。

《開館日数》6日間を除いてずっと開館。他の図書館と比べて多い。防災拠点でもあるのでなかなか閉められない現状。蔵書総数2万(収容能力の2倍)はほぼ開架図書。

《年間受入冊数》693冊、うち590冊が購入。他の図書館と比べて1ケタ数字が違う。

《登録率》人口の3分の1の登録となっている。

《貸出冊数》本の冊数によるものかもしれないが、江府は他の図書館より1ケタ少ない。

《蔵書内容》一般図書で文学が、児童図書で絵本が多い状況。理由として考えられるのは、出版数が多いことと、利用者の希望が多いこと。蔵書内容に応じて貸出の内容も比例している。郷土資料の蔵書数が増えているのは廃棄しないため。

《登録者数》20才代が多い。理由として電算処理システム導入による窓口での登録が増えたことが考えられる。高校生が低いのは、小学生時代、防災・情報センターでのバス待ち時に騒がしい児童が多く、町立図書館での貸し出しを禁止にしていたためではないか。現在、小・中学生は全員登録になっている。60才代以上が多くなっているのは退職等により余暇が出来たためではないか。

《利用者》小・中学生が多い。小学生はバス待ちの時間に利用し、中学生はテスト期間中などに利用する姿も見られる。60代も多い。登録者数が増えた理由と同様の理由だと考えられる。30代が少し多いのは、子育て世代が絵本を借りたりしているのではないか。

《利用状況》一番多いのは17時台。小学生がバス待ちの時間に利用するため高いのではないか。曜日別だと木曜日の利用率が多いが、理由は分からない。日曜日が少ないのが残念。

《図書イベント》月2回程度実施しており、本に親しむ機会を司書が作っている。イベントには3家庭程度（10人程度）が毎回参加している。

《休館》年末年始のみ6日間のみ。

《保育園・学校との連携》司書には学校司書もしてもらっている。そのため、勤務については不規則である。発達段階に合わせて本をセレクトし、学級文庫として提供もしている。読み聞かせなども行っている。

《施設・利用》防災・情報センターは複合施設であり、バス停の機能等もあるので、図書館だけの利用は難しい。ITルームは区切られているが、中・高校生の勉強だけでなく大人の打合せ・会議にも使われている。配架スペースの関係で、2階の廊下にも配架をしている。貸出は小・中学生は学校と町立図書館、町民は町立図書館となっている。今後、「開かれた学校」ということで、町民が小・中学校でも本を借りられるようになるかもしれない。

《司書の勤務》3人で回してもらっている。平日の図書館の開館は8:30～19:00、土日は8:45～17:30と、平日は10時間以上の勤務となるため早番と遅番で勤務してもらっている。そのため、複雑なシフトとなっている。学校司書（専任）がいらないため、小・中学校司書も兼務してもらっている。学校司書（専任）がいらないのは江府だけだが、他の市町村では何校かの掛持ちや学校主事との兼務をしている状況もあるようだ。土日祝日は1人勤務となり、防犯面の不安がある。司書同士の連絡・相談・協議もしにくい。研修・出張にも出にくい。

《これまでの取組》ブックスタート、ブックセカンド、移動図書館車（毎週木曜日を休館日として司書+運転手）などを行ってきた。現在は行っていない。

《選書・除籍》司書に一任している。新書を買うとスペースがなくなるので、やむなく除籍しているという状況。

（会長）今の説明について、質問はありますか。では、私がはじめに、県立図書館から借りた本は貸出の数字に入っていますか。

（司書）入っています。

（委員）うちの統計から見てもらっているようですね。生後三か月の子どもへの本のプレゼントはどうなっていますか。

（司書）終わっています。

（委員）日野町の登録率が高い理由と表のBMの意味を教えてください。

（司書）BMは移動巡回車（移動図書館）のことです。

（委員）高校生の登録率が少ない理由を詳しく教えてください。江尾1・2はどこからどこまでなのか教えてください。開館日数が多いのは嬉しいが、働く人はどうなのか。研修に行く時間が無いという話があったが、予算化はしてありますか。県立図書館に行ったときには、中の紹介などをしていただいていた良かった。

（山本主査）高校生が少ない事については、学校には登録システムが入っておらず、平

成 21 年の小学校の統合時、当時小学生だった現高校生世代がバス待ちのときに騒ぐ児童が多かったので「図書館に入らないように」という指導を行っていた経緯があります。

(司 書) 江尾 1・2 の分け方は、江尾・小江尾・佐川・久連が江尾 1 で、徒歩、自転車等比較的近い地域、貝田・宮市・柿原などが江尾 2 で、少し距離のある地域として分けています。

(会 長) 私は江府町図書館の図書カードは持っていませんが、日野・米子の図書館の図書カードは持っています。蔵書が、日野・米子の方が多いの理由の一つです。日吉津村の人は、2 割が米子図書館のカードを持っているし、伯耆町も 1 割の人が米子図書館のカードを持っています。江府町の図書館でもカードを作りたいが、読んだことのある本ばかりなので利用する気になりません。

(委 員) 登録率が高いのには、転出・死亡があった際にも消してないからと考えられます。

(委 員) 私は日吉津村と南部町の図書館のカードも持っています。

(教 育 長) 研修には公用車を利用して行っています。予算化はしていないので、参加費の必要な研修や県外の研修には行っていません。

(委 員) 統計の方法について教えてください。

(委 員) 統計資料については大体全国的な統計の取り方と同じです。

(委 員) 追加情報として、保護者は学校から本を借りることができます。昨年も夏休みの自由研究で利用がありました。また、司書教諭と司書さんの勉強会もあり、司書さんにも参加してもらっています。年に 1～2 回だが一緒に行っています。

(委 員) 予算として出張旅費が組んであると思いますが。

(教 育 長) ガソリン代が燃料費として組んであります。

(会 長) 去年、何回研修に行かれましたか。

(司 書) 何回かすぐには答えられません。

(委 員) 学校では 2 回研修があり、そのうち 1 回は中部地震で中止になりました。

(会 長) 県立図書館での研修はありますか。

(委 員) はい。あります。これから案内もします。

(会 長) 3 人の方で交代しながら小・中学校の司書業務もされていると聞きましたが、小・中学校に司書がない時間は 1 日でどれくらいありますか。

(山本主査) 小・中学校に行くのは週 2～3 日です。

(会 長) 司書のいない時はどうしているのですか。

(山本主査) 休憩時間には児童・生徒による委員会もあります。

(司 書) 小学校は昼休憩には行くようにしています。

(司 書) 中学校は学習支援員さんにも協力してもらっています。

(2) 課題・強み分析

(会 長) 2番目の議題に移りたいと思います。

学校図書館は子どもの学力に大きな影響を与えると考えられます。高校受験、大学受験などで点数が上がらない生徒は、本を借りたことが無い人が多いのです。学校図書館の開館時間が多いほど学力をつけることができるのです。

また、本を勧めてくれる人がいると、子どもの学力が変わってきます。教育に携わってきた経験として、図書館の空き時間(職員のいない時間)をつくってはいけないと思います。

(委 員) 片山前知事の本で「地方自治と図書館」があります。その本の中でも触れられていましたが、地方によって実情が違うので、その地方にあった取組をする必要があります。蔵書の事等は図書館のネットワークで対処できます。本を読まないということが問題です。大人も議員さんも利用するような取組を考えていく必要があると思います。テーマを絞って、住民の関心を喚起する必要があるのではないのでしょうか。また、役場の庁舎の中にも本が借りられるような仕組みがあったらよいと思います。

(会 長) 江府町図書館で困る部分、弱みを出せば、その逆である強みが見えてくると思います。人口が少ないのは強みだと私は考えます。町議会議員の中に議会時期になると米子図書館で調べられる議員さんが2人おられました。

(委 員) 蔵書もそうですが、人が一番重要だと考えます。小・中学校の司書業務を3人で回すのはすごく大変だと思います。平成2年から、私はチロル文庫で活動をしていて、引き続き読み聞かせなどの活動を行っていますが、今は個人での取り組みになっています。個人での取り組みだとなかなかサポートしにくいです。司書さんの活動は子ども達の学習にきています。ありがとうございます。

(委 員) 司書さんがおられてとても助かっています。いらっしゃることで授業活用の図書が非常に増えています。非常に工夫してシフトを組んでおられるので、人的措置が必要だと思います。また、図書館等に感心のある人が、江府町には多いと思います。

(会 長) チロル文庫は今もありますか。

(委 員) ママネットに引き継ぐ事になっていましたが、実質休業中です。

(委 員) 就学時までの子ども達への図書館支援はどうなっていますか。保育園から読書に親しむと活字に強くなるといった例もあります。ブックスタートを止められたのは初めて知りました。授業内容が変わっていく中で、図書館利用の必要性は高まっていくと考えられます。土日の利用が少ないのには驚きました。

(会 長) 中山間地域と都市部では、図書館の利用の実態が違います。兼業農家が中山間地域には多いので、お父さんは農業、お母さんも家事といったように、なかなか都市部のように子供を連れて土日に図書館を利用するのが難しいのではないのでしょうか。智頭町の取組(子どものための環境づくり)

や大人のための本（農業等の実用書）等、まずは環境づくりからスタートする必要があると思います。

- (教 育 長) 公共図書館について、会長さんは江府町図書館に登録していませんでしたが、どうしたら利用が増えるか、江府町図書館に何を期待しておられるでしょうか。
- (会 長) まず、町民に期待してもらえるような図書館にしなくてはいけないと思います。現状はそうでない状況だと考えます。
- (委 員) 図書館は日輪閣から防災・情報センターへ降りて、防災の拠点であるところなので、図書館機能だけという訳にはいきません。庁舎が出来るのに合わせて考える必要があると思います。小・中学生向けの本は小・中学校に持っていき、防災センターには大人の蔵書を増やすのが良いのではないのでしょうか。ネットワークを使えば学校から町立図書館に逆に本を持ってくることも容易なのですから。また、本の整理などをされている個人から寄贈などを募るのも、経費をかけずに蔵書を増やす一つの方法ではないでしょうか。
- (委 員) ネットワークをうまく活用すれば蔵書数についてはよいと思います。県立図書館に頼まれることが多いと思いますが、日野・日南からも本を借りることはできますか。
- (司 書) 借りられます。県立図書館の蔵書量が多いので、県立図書館から送ってもらう事が多いです。
- (会 長) 私は学校等が1つなのは連携が取れて強みだと思います。
- (委 員) 私が強みだと感じたことは図書館があることです。図書館が無いとどんなネットワークがあっても本を貸すことができないからです。また、開館日が多いことや複合施設であることも強みだと思います。いろんな人が会議等で防災センターに来て必ず図書館の前を通るので、そういった来館者に対してのアプローチをしていけばよいと思います。鳥取県は図書館のネットワークでは日本一です。県内にある大学の図書館も含めて本を借りることができます。
- (委 員) 県立図書館に行ったとき、突然行ったにもかかわらず丁寧な説明等があり、いい体験をさせてもらい嬉しかったです。
- (委 員) 図書館に興味のある方でバスを仕立ててもらい、ぜひ県立図書館にお越しください。
- (会 長) 協議会で1回お邪魔します。
- (委 員) 近ければ海女町にも行ってみたいです。
- (委 員) 海女町は海を渡らないといけないので、近くはないです。
- (会 長) 私も複合施設であることはプラスであると思います。
- (委 員) 複合施設であることから子どもたちも利用するので、大人の本だけにしないで欲しいと思います。
- (委 員) 保育園も毎週本を借りる取り組みをしているし、小学校では親子読書などの活動もしています。

(委員) 小林さんのお話を聞いて、図書サービスの現状を知りました。欲しい本がなければ取り寄せができるのは、ありがたい仕組みだと思いました。本を読むことはいろんな意味で良い事だと思います。

(3) 次回協議の柱について

(会長) 次回協議の柱はどうしましょうか。

(教育長) 保育園等との連携、複合施設の活用などを中心に協議の柱を設定していければと考えます。

(会長) 大人の図書館だけでなく、保育園・小・中学校のことも考えながら進めていきたいですね。

(委員) 司書さんの意見を聞くのはどうでしょうか。

(山本主査) 本日の資料は司書さんにまとめていただいていますので、意見も反映されていると思いますが、生の声はまた違うかもしれません。

(委員) 生の声を次回聞くのがいいのではないかと思います。

(会長) 事務局で今日の話し合いを基に次回協議内容を考えるのはどうでしょうか。

(委員) 小さいながらも頑張っている図書館の事例などを県立図書館に教えてもらうのも良いのではないのでしょうか。

(委員) 次回の議題の内容にあった事例を準備します。

(会長) 次回内容について事務局でまとめてください。

(山本主査) 事務局内で相談し、県立図書館にもご協力いただければと思います。

5 その他

第2回の会について

(山本主査) 次回は7月4日、12日のあたりではいかがでしょうか。

(委員) 次回だけは都合が悪いので、休ませてください。

(会長) それでは、次回は7月4日(火)に開催するということをお願いします。

(山本主査) 時間としては13:30からとさせていただきます。

日程：平成29年 7月 4日(火) 13時30分～

6 閉 会

(会長) 第1回の図書館協議会で皆さんの意見が出てきたのではないのでしょうか。ありがとうございました。